

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03399

研究課題名(和文) 日本の女性会計研究者の現状と課題に関する理論的・実証的研究—歴史を踏まえて—

研究課題名(英文) Theoretical, historical and empirical research on the current situation and challenges of female accounting researchers in Japan

研究代表者

北村 敬子 (KITAMURA, KEIKO)

中央大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：70055242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本の女性会計研究者はどのような現状にあり、どのような課題を抱えているのかを、主として研究面を中心に多様な側面から検討・分析を通じて明らかにすることであった。実証的研究では、クロス分析を行い、女性会計研究者の会計研究と研究面以外について網羅的・体系的に分析をした。理論的研究では、女性会計研究者の研究方法の傾向ならびに研究領域の方向性、研究内容の特徴を分析し、女性会計研究者の理論的研究の課題を明らかにした。そして、歴史研究では、インタビュー調査や文献調査により、女性会計研究者としての苦労や家庭での様子、さらには研究面での特徴を浮き彫りにした。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research is to shed light on the current situation and challenges of Japanese female accounting researchers through examining and analyzing mainly from the point of view of their research. In the empirical study, cross analysis was conducted to analyze research and non-research aspects of female accounting researchers comprehensively and systematically. In theoretical research, we analyzed the trend and characteristics of research method, research area, research contents and the challenges of female accounting researchers. In history research, interview survey and literature survey highlighted a unique set of challenges for female accounting researchers from the standpoint both of the research and work-life balances.

研究分野：社会科学

キーワード：理論的研究 実証的研究 歴史研究 文献研究 インタビュー調査 女性会計研究者 海外における女性会計研究者

1. 研究開始当初の背景

日本における女性研究者の割合は増加を続けているとはいうものの、未だ低い状況にある。総務省のまとめによれば、英国や米国における女性研究者の割合は30%台、独仏も25%を超えているのに対して、日本は14.4%である。(出所:

<http://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka/topics/topics80.htm>)

こうした事情を背景に、科学技術振興機構が各大学と共に進めている「女性研究者研究活動支援事業」では、女性研究者の登用ならびに出産、子育て又は介護と研究を両立するための環境整備を行う取組とその普及をすすめている。

本研究も、そうした潮流の中に位置づけられる。日本の女性会計研究者の研究活動などの特徴や現状に至るまでの軌跡を明らかにし、現状の課題を把握することは、その解決策に関する新たな研究の基礎となる点で重要な研究課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、歴史的に見て、また国内外の会計学会あるいは日本の他の学会との比較において、日本の女性会計研究者はどのような現状にあり、どのような課題を抱えているのかを、研究面を中心に多様な側面を加えた検討・分析を通じて明らかにすることで、今後の女性研究者の活躍に貢献するとともに日本の会計研究の発展に寄与することを企図している。

具体的には、(1)日本の女性会計研究者の会計研究を網羅的・体系的に分析することにより、その特徴、(2)日本の女性会計研究者のデータベースを作成することにより、将来につなげるための現状の長所と短所、(3)日本の草分け的な女性会計研究者の会計研究を歴史的に検討することにより活躍の軌跡、(4)社会貢献や価値観などについて女性会計研究者の現状を明らかにする。

3. 研究の方法

研究にあたっては、歴史研究、実証的研究、理論的研究の3つの研究方法を採用する。そして、それぞれが、文献研究、アンケート調査、それにインタビュー調査という3つの具体的な研究調査手法により、日本の女性会計研究者の研究の棚卸し、歴史を遡って時系列分析ならびに歴史研究を行う。

4. 研究成果

わが国の女性研究者の現状について、研究者に占める女性研究者比率、職場の視点、研究の視点、生活・家庭の視点から調査した。そのうえで、日本会計研究学会における女性会計研究者の現状を研究の視点を中心に検討を行った。また、わが国の女性会計研究者の現状について、国内における他学会との比較からその特徴を洗い出すために、日本経済

学会との比較を行った。そして、海外の女性会計研究者の現状と比較するため、欧州・米国・アジアの女性会計学者へのインタビュー調査を行った。

本研究では、アンケート調査を2回実施した。第1回目は、日本会計研究学会に所属する女性会計研究者を対象に、第2回目のアンケート調査は、日本会計研究学会に所属する全会員を対象に行った。これらのアンケート調査に基づいて理論的・実証的分析を行った。

実証的研究では、クロス分析を行い、女性会計研究者の会計研究と研究面以外について網羅的・体系的に分析をした。また、女性会計研究者の研究などの特徴を男性会計研究者のそれと比較分析することにより、女性会計研究者独自の特徴を明らかにすることを試みた。

理論的研究では、実証的研究によるアンケート調査の研究面に関する回答をもとに、女性会計研究者の研究手法の傾向ならびに研究領域の方向性、研究内容の特徴を分析し、女性会計研究者の理論的研究の課題を明らかにした。

歴史研究は、これまでのわが国の女性会計研究者の中から、4人を抽出して、インタビュー調査や文献調査により、女性会計研究者としての苦労や家庭での様子、さらには研究面での特徴を浮き彫りにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

田中優希「学会ルポ 日本会計研究学会第74回大会 スタディ・グループ報告(1)わが国における女性会計学者の現状と課題(中間報告)」、『企業会計』、第67巻第12号、2015、116頁、査読無

阪智香「東アジアにおけるCSR情報開示と社会的価値」、『関西学院商学論究』、第63巻第3号、2016、505-522頁、査読無

Saka C. and Noda, A. "Asset Retirement Obligations Standard and Value Relevance" *International Review of Business*(16), 2016, pp.1-16, 査読有

宮本京子「企業リスク情報に対する保証業務の実行可能性」、『現代監査』、第26号、2016、12-23頁、査読無

津村怜花「学会ルポ 日本会計研究学会第75回大会 スタディ・グループ報告 わが国における女性会計学者の現状と課題(最終報告)」、『企業会計』、第68巻第12号、2016、118-119頁、査読無

北村敬子、井原理代「対談 女性会計学者の足跡とこれから(特集 戦後会計史9の軌跡: 会計の可能性に挑んだ巨匠たち)」、『企業会計』、第69巻第1号、2017、68-84頁、査読無

阪智香「会計時評 女性会計研究者の海外

調査』、『企業会計』第70巻第3号、2018、4-5頁、査読無

〔学会発表〕(計5件)

Saka, C. and Jimichi, M. “Inequality Evidence from Accounting Data Visualisation” American Accounting Association 2015 Annual Meeting (国際学会), 2015, Chicago, U.S.A.

北村敬子、井原理代、挽文子「スタディ・グループ報告(1) わが国における女性会計学者の現状と課題(中間報告)」、日本会計研究学会第74回大会、2015年、神戸大学

Oshika, T. and Saka, C. “Sustainability KPIs for Integrated Reporting” Korean International Accounting Association 2015 Annual Meeting (国際学会), 2015, Kunsan National Kunsan, Korea

北村敬子、小津稚加子、田中優希、津村怜花「スタディ・グループ報告(3) わが国における女性会計学者の現状と課題(最終報告)」、日本会計研究学会第75回大会、2016、静岡コンベンションアーツセンター

挽文子、田中優希 “The Perception of Female Accountants in Explaining Their Motivations and Gender Gap Among Japanese Academe Community” 29th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues (国際学会), 2017

〔図書〕(計6件)

廣本敏郎、挽文子『原価計算論 第3版』、2015、中央経済社、752頁

廣本敏郎、挽文子【編著】『日本の管理会計研究』、2015、中央経済社、372頁

北村敬子、西村優子、堀江優子、阪智香、井原理代、兵頭和花子、澤登千恵、津村怜花、挽文子、田中優希『日本会計研究学会 スタディ・グループ報告 わが国における女性会計学者の現状と課題(中間報告)』、2015、自、164頁

北村敬子、西村優子、堀江優子、阪智香、高田知実、井原理代、兵頭和花子、澤登千恵、津村怜花、挽文子、田中優希、木村麻子、西村三保子、宮本京子、小津稚加子、佐々木郁子、石川恵子、丸岡恵梨子『日本会計研究学会 スタディ・グループ報告 わが国における女性会計学者の現状と課題(最終報告)』、2016、自、466頁

北村敬子【編著】『会計研究者として活躍する女性たち 輝ける未来へ向けて』、2018、中央経済社、276頁

藤沼亜起編、企画・協力八田進二、斉藤惇、渡辺章博、池田唯一、梶川融、北村敬子『新時代を切り拓く会計プロフェッション』、2018、同文館出版、271頁

〔その他〕

ホームページ等

日本会計研究学会スタディ・グループ わが

国における女性会計学者の現状と課題

<http://www.jaa-net.jp/study2014a/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

北村 敬子 (KITAMURA KEIKO)

中央大学・名誉教授

研究者番号：70055242

(2) 研究分担者

石川 恵子 (ISHIKAWA KEIKO)

日本大学・経済学部・教授

研究者番号：70343647

井原 理代 (IHARA MICHIO)

高松大学・経営学部・教授

研究者番号：90036038

小津 稚加子 (OZU CHIKAKO)

九州大学・経済学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30214167

(H28年度、H29年度)

木村 麻子 (KIMURA ASAKO)

関西大学・商学部・教授

研究者番号：30389233

阪 智香 (SAKA CHIKA)

関西学院大学・商学部・教授

研究者番号：10309403

佐々木 郁子 (SASAKI IKUKO)

東北学院大学・経営学部・教授

研究者番号：90306051

(H28年度、H29年度)

澤登 千恵 (SAWANOBORI CHIE)

大阪産業大学・経営学部・教授

研究者番号：30352090

(H28年度、H29年度)

高田 知実 (TAKADA TOMOMI)

神戸大学・経営学研究科・准教授

研究者番号：00452483

(H28年8月まで)

田中 優希 (TANAKA YUKI)

法政大学・経済学部・准教授

研究者番号：00636178

津村 怜花 (TSUMURA REIKA)

尾道市立大学・経済情報学部・准教授

研究者番号：90582940

西村 三保子 (NISHIMURA MIHOKO)

明治学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：80587288

西村 優子 (NISHIMURA YUKO)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：10099228

(H27年度)

挽 文子 (HIKI FUMIKO)

一橋大学・商学研究科・教授

研究者番号：00251728

兵頭 和花子 (HYODO WAKAKO)

兵庫県立大学・経営学部・准教授

研究者番号：50382255

(H27年度、H29年度)

堀江 優子 (HORIE YUKO)

明星大学・経済学部・准教授

研究者番号：30613187

丸岡 恵梨子 (MARUOKA ERIKO)

流通経済大学・経済学部・助教

研究者番号：30807558

(H29年9月追加)

宮本 京子 (MIYAMOTO KYOUKO)

関西大学・商学部・教授

研究者番号：50407334

(H29年9月まで)

山内 暁 (YAMAUCHI AKI)

早稲田大学・商学学術院・教授

研究者番号：10386542

(H29年9月まで)

(3)連携研究者

小津 稚加子 (OZU CHIKAKO)

九州大学・経済学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30214167

(H27年度)

佐々木 郁子 (SASAKI IKUKO)

東北学院大学・経営学部・教授

研究者番号：90306051

(H27年度)

高田 知実 (TAKADA TOMOMI)

神戸大学・経営学研究科・准教授

研究者番号：00452483

(H27年度)

山内 暁 (YAMAUCHI AKI)

早稲田大学・商学学術院・教授

研究者番号：10386542

(H27年度)

(4)研究協力者

辻山 栄子 (TSUJIYAMA EIKO)

早稲田大学・商学学術院・教授

西村 優子 (NISHIMURA YUKO)

青山学院大学・経営学部・教授

(H28年度、H29年度)

丸岡 恵梨子 (MARUOKA ERIKO)

流通経済大学・経済学部・助教

(H27年度、H28年度)